研究論文／テーマ解説

特集：水素応用技術

和タイトル：16ポイント(pt)・中央揃え

―和サブタイトル：14pt・中央揃え―

低温　太郎\*1,†，超電導　花子\*2，Cryogenics SUPERCOND\*3：和文著者名12 pt・中央揃え

Cryogenic Engineering English タイトル：14 pt・中央揃え:

Cryogenic English サブタイトル：14 pt・中央揃え

Taro TEION\*1,†,Hanako CHODENDO\*2 and Cryogenics SUPERCOND \*3：英文著者名10pt・中央揃え

Synopsis: This is the manual for how to prepare your paper for the Journal of Cryogenics and Superconductivity Society of Japan, TEION KOGAKU. Use this document as a template, if you are using Microsoft Word. Otherwise, use this document as an instruction set. Synopsis should be a brief, condensed and general statement of your subject within 500 words. The statement is also summary for foreign readers.

**Keywords**: within five words or phrases including less 3 words, in alphabetical order, separated by commas

(Some figures in this article may appear in colour only in the electronic version) 電子版のみカラーを希望の場合は表記のこと

1．はじめに

この要領と仕上りの体裁がほぼ同じであれば使用ソフトは問わない。ただし，タイトル頁の体裁，本文の1行の

字数，1段の行数は以下の設定に従う。句読点は全角で

「、または ，」と「。または ．」。IME等の言語ソフトのプロパティで設定可能。ただし英字・数量等は半角で表記。

2. ページ設定

2.1　印刷設定

印刷用紙はA4判（印刷の向きは縦を選択），余白は，上が26 mm，下が26 mm，内側16 mm，外側16 mmとする。本文の1行の文字数は26字，行数は48行の2段組にする。段組の設定では左右の余白を優先して，段の幅は84 mm，段の間隔は9–10 mmとする。

2.2　フォントと特殊文字について

|  |  |
| --- | --- |
|  | Received July 31, 2019（受付日） |
| \*1 | XX工業株式会社（筆頭著者：和文所属）　 〒113-0033　東京都文京区本郷6-12-8（和文住所） XX Corporation, 6-12-8 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, Japan（英文所属，住所） |
|  \*2\*3 | YY大学理工学部〒113-0033　東京都文京区本郷X-XYY University, X-X Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0033, JapanNational \*\*\* Laboratory, \*\*\* University, address |
| † | E-mail: teion@csj.or.jp（連絡者メールアドレス）DOI: 10.2221/jcsj.54.000（54巻000頁掲載，を示す） |

見出し以外，日本語用のフォントはMS明朝 または平成明朝，リュウミンライト-KLなど，英数字用のフォントはTimes New Romanをすすめる。ギリシャ文字はSymbol （）とする。見出しのフォントは英数字ともにMSゴシックまたは平成角ゴシック。式以外は2倍ものや特殊な合字は使用しない。

3. 文字の組み方

3.1　タイトルページの作成

和文タイトル：16 pt，副題14pt，1段組，左右中央。

和文著者名：12 pt，1段組，左右中央。

英文タイトル：14 pt，1段組，左右中央。

英文著者名：10 pt，1段組，左右中央。

**Synopsis**：1段組，9 pt，左右のインデント2字空ける。

**Keywords**：1項目3 wordsで5項目以内。

所属：左段下脚注に。明朝体，8 pt，行送り10 pt。和文所属・住所，英文所属・住所，連絡者のメールアドレス。

DOI（掲載ページが確定後に編集部で修正します）

3.2　本文の作成

本文：2段組，9 pt，1段の設定が26字×48行，段幅84 mm，段間9–10 mm。

大見出し：10 pt，MSゴシック，1字下げ，2行どり（「書式」「段落」｢間隔｣で「行間2行」に設定）。

小見出し：9 pt，MSゴシック，上下の行は空けない。

大見出し・小見出しを行末に入れない。

単位系：原則としてSI単位系。数字と単位との間は半角から1/4スペース（「書式」「挿入」｢記号と特殊文字｣の｢特殊文字」を選択して挿入可能。ただし「 °，℃，％」の場合は空けない），変数はイタリック表記が望ましい。

**Fig. 1** Title and texts in English. 9pt（1行：中央に，2行以上：左寄せ）， 行間は固定値12 pt

4. 図・写真・表について

4.1　図・写真

**図番号，図説明，図中文字は英文**，9 pt，行間は固定値12 ptで，図下に図から3～4 mm離してつける。本文での図引用時は（初出のみ）太字（**Fig. 1**）とする。図中の文字は本文より小さく8 ptで罫の太さは0.25 pt以上とし，かすれないようにする。

図・写真は画像を画面に取り込むか（★），画像データがない場合でスキャン希望の場合は図・写真原稿を添付する。

（★）図は画像ファイルを「挿入→図」で取り込む。画像ファイルはTIFFファイルが望ましい。PPT画像はTIFFファイルに保存してから挿入など。掲載時に印刷用PDFを作成する際，画像・文字等の不具合が生じにくいため。画像・キャプションレイアウトは「四角」が望ましい。

4.2　表

表番号，表説明，表中文字は英文，9 pt，行間は固定値12 pt。タイトルは表の上，左右中央に入れる。長いタイトルは図と同じように字下げをしないで続ける。表の大きさはレイアウトに空きができないように片段（左右84 mm以内）または全段（170 mm以内）にすることが望ましい。表の挿入を使用して表を作成するか，貼りこんでもよい。本文での表引用時は（初出のみ）太字（**Table 1**）とする。

4.3　図表の配置

図表はタイトルページに入れない。また参考文献の末尾に付録のように配置しないこと。

片段最大84 mm，全段最大170 mmに収める。

説明の本文に近いページ上部か，下部に収める。

本文との間を1行空ける。

Table 1　Title and texts in English. 9 pt（1 行：中央に，2 行以上：左寄せ），行間は固定値12 pt

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Text |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

表説明（左寄せ，9 pt），表の左右は，片段最大84 mm または 全段最大 170 mm以内

5．式

式は行頭3字下げて式を挿入し，行末に式番号 (1) (2) を付ける。式についてはそれぞれ使用している数式ソフトを使用して作成する（「挿入→オブジェクト→新規作成→Microsoft 数式」を選択して作成可）。使用するフォントはTimesまたはSymbol。変数はイタリック体で表示するのが望ましい。

 (1)

本文（字下げ無し）□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。



｛数式行（続）｝ (2)

式説明□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□。

 (3)

6．参考文献

8 pt，行間は固定値12 pt。

文献の引用は通し番号 1)，2,3)，4-6) を付け，引用部に上付きで表記する7)。リストは論文の末尾に一括する。

書き方は原則として，**英文表記を最初に，改行して和文も併記する。英文および和文表記とも「著者名，表題，雑誌名，巻（年）始頁-終頁」**の順とし，全著者名を表記することを原則とするが，共著者4名以上の場合は筆頭著者のみ表記し，以下を｢ら／et al.｣と略してもよい。

本会誌，本会概要集を文献として引用する場合は下記の英文名を使用する。他の学会誌に投稿する場合も同様。

｢低温工学」＝ TEION KOGAKU

｢低温工学・超電導学会概要集」

＝ Abstracts of CSSJ Conference（第85回以降）

＝ Abstracts of CSJ Conference （第84回以前）

2011年4月の学会名称の変更により。

以下に例を示す。

参　考　文　献

1. O. Ozaki, et al.: “Development of NbTi superconducting magnet for generating uniform magnetic force fields,” TEION KOGAKU **37** (2002) 271-278 (in Japanese)

尾崎　修ら：「均一磁気力場発生用NbTi超伝導マグネットの開発」，低温工学 **37** (2002) 271-278

1. K. Okamura, M. Kiuchi, E.S. Otabe, T. Yasuda, T. Matsushita and S. Okayasu: “Pinning property of Bi-2212 single crystals with columnar defects,” Abstracts of CSJ Conference **68** (2003) 3

岡村和憲，木内　勝，小田部荘司，安田　敬，松下照男，岡安　悟：「柱状欠陥を導入したBi-2212単結晶のピンニング特性」，第68回2003年度春季低温工学・超電導学会講演概要集 (2003) 3

1. T. Ohkuma and Y. Iwata: “Superconducting fault current limiter,” J. IEE Japan 1**17** (1997) 222-226 (in Japanese)

大熊　武，岩田良浩：「超電導限流器」，電学誌 **117** (1997) 222-226

1. K. Yoshida, K. Ikeda, K. Saito and Y. Kanda: “Application of superconducting stroplines to traveling-wave type LiNbO3 optical modulator,” IEEE Trans. Appl. Supercond. **E76-C** (1993) 1287-1290

**単行本の場合**は，著者名，書名，出版社，所在地（年）始頁–終頁を書く。

1. R.F. Barron：“Cryogenic Systems (2nd Ed.),” Clarendon Press, Oxford (1985) 409
2. (社)低温工学協会 編：「超伝導・低温工学ハンドブック」，オーム社，東京 (1993)

**ウェブサイト，ウェブページ，ブログ等の場合**は，著者名：「ウェブページの題名」，ウェブサイトの名称（更新日付：明記されている場合「更新」を付記）。URL（入手日付：「参照」または「accessed」を付記）を記載する。

1. 文部科学省大規模研究開発事業「ターゲットタンパク研究プログラム」：「タンパク3000 プロジェクト」http://www.tanpaku.org/pdf/protein3000/pamphlet\_j.pdf（参照 2016-06-06）

7．著者紹介（この見出しは不要です）

最後は2段並行止め（左と右の段で左右そろえて終わる）にしてください。

原稿の最後の行で改行して，ページレイアウトで「セクション区切り」「現在の位置から開始」でできます。

（写真等が移動するなど，うまく設定されない場合はそのままでかまいません）

著者紹介は参考文献の後に「横ケイ」を入れて続ける。

原則として全著者について掲載するが，個人情報を含む内容，写真の有無については自己責任で掲載のこととし，著者の判断に任せる。（下記例参照）

本文：8 pt，行間は固定値12 pt，氏名はゴシック，本文は明朝体，150字以内。

写真：縦28 mm×横22 mm，グレースケール，解像度300 dpi以上，ハードコピーの場合は原稿に貼り付ける。

低　温　太　郎 　19XX年12月3日生。19XX年□□大学理工学部物理学科卒業。19XX年同大学院理工学研究科博士前期課程（物性物理専攻）修了。19XX年□□(株)□□研究所勤務。超伝導材料開発に従事。19XX年より(株)□□工業□□事業所勤務。主に超伝導薄膜製造装置開発に従事。低温工学・超電導学会，日本物理学会，電気学会会員。理学博士。

超　　　電　導 　19XX年7月生。19XX年○○大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。19XX年○○大学理工学部教授。超電導応用に関する研究に従事。低温工学・超電導学会，電気学会会員。工学博士。

**Cryogenics SUPERCOND** \*\*\* Professor of Mechanical Engineering at the National \*\*\* Laboratory, \*\*\* University. Research interests \*\*\*\*\*\*

（外国人の共著者の場合はすべて英文でかまいません)

◎

カメラレディ原稿の作成ありがとうございました。

ご協力に感謝いたします。